



しょうじ かいと  
**小路 魁虎** さん

全農杯2022年全日本卓球選手権大会、ロート製薬杯第40回全国ホープス卓球大会出場

県大会では敵なし。  
目標はもちろん、全国優勝！



▲得点を決めるときには「ウォー、ウォー」と自らを鼓舞。

**卓**球の全国大会に5年連続で出場している垢田小学校6年生の小路魁虎さんをご紹介します。

小路さんが卓球を始めたのは、6歳の頃。祖父母や両親が卓球をしており物心付く前から卓球に触れていた小路さんにとって、同じ道を歩み始めたのは、ごく自然なことでした。

はやぶさクラブに所属し、個人戦、団体戦でそれぞれ最も大きな大会である全農杯、ロート杯に出場。全

国大会では、相手に得点を先行されながらも必死に耐え、1セットを取り返した小路さん。「緊張し過ぎて思い切って自分のプレーができず終盤にミスが出てしまった。冷静に戦えれば勝てたはず」と、夢に向かってまた新たな1歩を踏み出しました。

監督の小路雅則さんは、「強い選手にもいるんな選手がいるが、周りの人に応援してもらえるような選手になってほしい」と、指導に熱を込めます。

## 3年ぶりの夏の風物詩への思い



市長コラム  
**希望の風**  
市長の部屋



行っていかなくてはならないと、改めて思いを強くしています。  
日本中にそのような思いがあり、例えば、青森のねぶた祭、徳島の阿波踊りなど、皆齒を食い縛って3年ぶりの開催にこぎつけています。地域の元気を取り戻すことはもちろん、文化や伝統の継承に、関係者や行政が中心となって、必死に取り組んでいます。皆さまの温かいご理解をお願い申し上げます。

皆さんこんにちは！ 前田晋太郎です。今年には下関の夏の風物詩である「関門海峡花火大会」と「馬関まつり」が3年ぶりに開催されました。下関21世紀協会、下関青年会議所を中心とした実行委員会の皆さま、そしてボランティアなどで両イベントを支えてくださったすべての皆さまに感謝申し上げます。  
当日は、本当に多くの方が来場されました。特に若い世代の方々にとっては、待ちに待ったイベントだったと思います。私も参加しましたが、みんな本當にうれしそうで、お客さんだけではなく運営側の皆さまからもそのような雰囲気が出ました。花火大会では、久しぶりの美しい景色に涙を流された方も多くいたと聞いています。本當に開催して良かったと思っています。  
コロナがいつ終息するか予見はできません。これからの時代は、コロナ対策を念頭に置きながらも、可能な限り社会活動、経済活動、そして文化継承を行っていかなくてはならないと、改めて思いを強くしています。